



福島隆史 (ふくしま・たかし)

公認会計士。(株)サステナビリティ会計事務所
／サステイバー・コミュニケーションズ(株)代表
取締役としてコンサル／レポート制作／保証を
行う。著書「CSRエピソード」幻冬舎 2017年。

日本が優先的に取り 組むべきゴール

エス・ディー・ジーズ

SDGsのゴール1は「貧困」、ゴール2は「飢餓」……こう読み上げていくと、その最初の段階で、先進国である日本にとってSDGsは関係のないものではないかとおっしゃる経営者の方がいらっしゃると思います。あるいは、世界の課題に遠い位置にある日本がそれでも取り組む、という姿勢について、偽善的でポーズにしか過ぎないのではないかと、と評価している方も現実にはいらっしゃると思います。

そういった方々に向けてぜひご紹介したいのが、世界から日本を見た場合の、SDGsゴールごとの達成度評価です。

SDSN (Sustainable Development Solutions Network) がMUNA (<https://www.sdgindex.org/>) で公表している「Sustainable Development Report 2019」によると、日本は、次のゴールへの取り組み状況が不十分と見なされています。

ゴール5…ジェンダー、女性が活躍できる社会になっていない、という評価です。

ゴール12…大量生産大量消費、資源循環できていません、という評価です。

ゴール13…エネルギーを大量消費するなどして地球温暖化に加担している

ますね、という評価です。

ゴール17…パートナーシップ関係では、途上国に十分に手を差し伸べているとは言えませんが、という評価がされています。

また、ゴール10…不平等の状況については、トレンドで見ても悪化している傾向にある、との評価もなされています。

これらの各ゴールは、世界から見ても日本は遅れていると見なされているのですから、これらに取り組むことはSDGsの精神である、最も遅れているところに着手することで誰一人取り残さない世界を目指す、ということにも合致するものと思います。

なお、同じレポートにおいて、日本が高評価を受けているゴールが二つありますので、ご紹介したいと思います。

ゴール4…教育体制は各国の比較から見ても素晴らしい、と評価されています。

ゴール9…イノベーションなどの社会基盤づくりは素晴らしいと評価されています。

こういった世界からの評価を励みに、SDGsゴール達成に向けた取り組みを今後とも頑張ってくださいませ！

SDGs

Sustainable Development Goals
(持続可能な開発目標)

2015年国連が採択した持続可能な開発のための
2030年アジェンダ



2030年に向けて
世界が取り組むべき
「持続可能な開発目標」です。